

原水爆禁止2021年世界大会へ

世界大会長崎実行委員会は4月17日総会を開催、民商会館会議室やオンラインで地域や団体から26名参加し、とりくみを開始しました。総会では「世界大会実行委員会運営委員会代表の高草木さんの特別講演で「2021年世界大会の意義と任務」を学習しました。高草木さんは、今年の世界大会は核兵器禁止元年、核兵器のない世界への新しい時代の始まり、それにふさわしい大会、ふさわしい運動をつくり、ふさわしい変化を実現したいとの決意を表明し、そのためにも被爆地長崎からの発信は重要で、大いに知恵と創意を発揮してほしいと期待をのべました。



そして「ことしの大会の最大の特徴は、核兵器禁止条約が発効したもて、内外の反核平和運動が結集する最初の大会となる」として、核兵器廃絶へ大勢は批准は54カ国、署名86カ国、条約賛成は130カ国となり、条約は発効した。国際政治の主役が代わったこと。

バイデン政権や中国・習近平政権、イギリスでの動きに触れ、国際的には米中対立の激化、双方の軍事力の増強と緊張の激化は重大な問題となっているが、世界の圧倒的多数の国々は、紛争の平和的解決、核兵器禁止、コロナへの対応、気候変動、格差やジェンダーでも、市民社会と共同して行動している。核兵器禁止条約は、その変化をリードしていること。世界大会で「被爆者と共に、核兵器のない平和で公正な世界を一人類と地球の未来のために」を掲げた意味、昨年、NPTを前にニューヨークで世界大会を構想したように、今年の世界大会をニューヨーク行動、平和の波と連動させ、世界的な行動の結節点にしようとしている意味がここにあること。

そして、世界大会のもう一つの焦点は、「核の傘」に依存する国々で変化を創りだすこと、その流れに決定的なものにする日本の核兵器禁止条約参加をつくりだすこと

菅自公政権は異常な実態であり、「これ以上、いくら菅政権をつついても、核兵器禁止の材料は何も出てこない。」「問題は野党の共闘」であり、世論は、日本でも、米、加、欧州諸国など他の国でもいずれも70%超が禁止条約参加を支持しているし、米同盟国で、NATOが本部を置き、核が配備されたベルギーでも国民世論の決断と野党の勝利を受け、国会が禁止条約への参加の積極的検討へと動いた。ことなどから見ても明快な方向性をもっている。

そういう中で市民連合も野党への共通政策申し入れで、禁止条約にただちに批准としている。日本政府の禁止条約署名を求める署名には、被爆者や著名な音楽家、宗教者、幅広い呼びかけ人の名前がある。日本政府に署名を求める意見書決議は、自治体の30%、554に達し、なお、増え続け共同も広がっていること。世界大会成功へ新たなパンフも作り、7月初めには新聞意見広告も出す。署名、平和行進で国民的な対話を起こそう。被爆者の命あるうちに核兵器を廃絶を！という目標を絶対に薄めたり、あきらめたりしてはならない。と訴えました。

世界大会は、NPT再検討会議の開催と同じ8月2日に始まり、2日国際会議、6日広島デー大会、9日長崎デー大会を中心行事とし、その間に①被爆者・核被害者との連帯、②沖縄連帯・外国軍事基地撤去、③ベトナムの枯葉剤被害者との連帯、④非核平和のアジアと運動の役割、⑤青年企画、考えよう！核兵器・経済・環境などのテーマ別集会、科学者、女性、青年、高校生などの階層別集会、さらに広島・長崎の現地企画をおこなうとしています。

大会は、7月31日、世界の反核平和団体が共同で開催するニューヨークでの集会と連携する。世界各国政府とNPT再検討会議に対し、核軍備撤廃に関わる全ての合意の実行、核兵器禁止条約への参加、核兵器のない世界の実現などを求める。

また、8月2日から9日まで、核兵器廃絶を求める草の根の共同行動「平和の波」を全世界で展開する。

今大会の一つの注目行事は、被爆地広島・長崎からの発信。

被爆76年、8・6／8・9は全国、全世界の人々が被爆者、被爆地、支えた人々の声を聴くべき日、世界大会こそその役割を果たすべき。と世界大会の内容を紹介し、

国政選挙も展望し、防護策を取りながら、コロナ負けずに頑張ろう。と呼びかけて講演が終わりました。その後の総会議事では、世界大会や長崎独自のプログラム、平和行進についてそれぞれ提案され意見交換がおこなわれました。世界大会は、全国から1万人以上の参加をめざし、主要行事はオンラインで行なわれます。禁止条約発効後の新しい時代の大会です。昨年の経験を活かし、平和行進、世大会成功へ、創造的に取り組む大会実行委員会の役割発揮が求められています。

原水爆禁止長崎県協議会 2021年定期総会のお知らせ

総会日程 6月13日(日) 14時～16時30分
・記念講演・総会はZoomウェビナーで開催します。

記念講演 (14時～15時)

核兵器禁止条約の発効を力に、
2021年を核兵器のない世界へ大きな前進の年に

講師

安井 正和 日本原水協事務局長

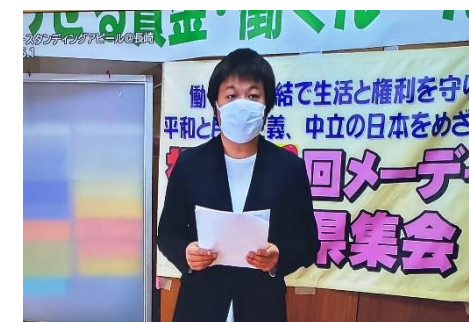


※5月8日(土)開催予定だった

総会は、会場の長崎市立図書館が新型コロナウイルス感染予防のために休館となり、日程を変更し、Zoomウェビナーでの開催としました。

講演会終了後(15時～16時30分)

「原水爆禁止長崎県協議会2021年定期総会」開催



第92回メーデーで原水爆禁止長崎県協議会を代表して挨拶する筒井涼介さん。

「被爆地ナガサキから核兵器廃絶の世論を広げるために、すべての労働者のみなさまを含めた市民社会や労働組合をはじめとする諸団体との幅広い共同を築きながら奮闘する決意です。労働者が安心して働くことのできる社会をつくる活動と核兵器のない社会をつくる活動は、どちらも平和で公正な世界を築くために大切な活動です。お互いが手を取り合い、ともに活動を発展させていきましょう。」

「オンラインでの長崎県集会の配信より」

核兵器のない平和で公正な世界を 長崎県原水協ニュース 2021.5.5
〒850-0035 長崎市元船町5-11-402 TEL 095-895-9106 FAX 095-895-9102
メールアドレス：nagasaki65@forest.ocn.ne.jp